

お宝たくさん『星野村』 ～里山の癒やしで都市農村交流を推進しよう～

星野地域協議会（八女市星野村）

【地域協議会構成団体】 星野村農産物直売所組合「びそん」、物産直売所「清流」、星野村農産物加工施設「星の里」、広内・上原地区棚田保存実行委員会、鹿里ふるさと会、星野村観光協会、星野地区まちづくり協議会、八女市役所星野支所（事務局）

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成28年1月

- ・「がんばりよるよ星野村（連合）」※を軸として、各団体の意見をまとめ、検討を実施。（全10回）。

※ 協定で育む「農山村との絆」モデル事業（県単事業）の推進団体

- ・八女市星野村農業振興大会（平成29年1月）にて、地域住民へ周知。



【星野村農業振興大会の様子】

2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・地域特産物の開拓：普及指導センター等と連携し、新たな地域特産物の開拓のため、たまねぎ、だいこん、トウガラシ等を試作。新たな特産物としての品質維持を目指し、農地選択も含め病害対策など、栽培法の検討を進める。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・農林水産物の付加価値創出：未利用茶園の活用として、茶の実を収穫し、その油をつかった6次化商品の開発・販売を実施。H27は食用油（星野茶美人）、H28は化粧品（星野なのローション、星野ティーオイル）を販売。売上高60万円（H30）。

III 地域の人口を増やす

- ・情報発信：絆モデル事業の協定団体のHPなどでイベント情報の発信。通信販売も視野にいれ、新HP「星野村マルシェ」を開設。
- ・地域に定住する新規就農者の確保：移住体験・交流施設「ていちゃんげ」を活用。移住希望者の受入等を実施。移住体験者として、H30は26名を受入した。定住希望者には空家バンクを紹介。
- ・非常に珍しい、古米の赤米を使用した餅つき体験を開催し、都市農村との交流活動を実施。



【赤米餅つき体験】



【福岡デザインアワード入賞
星野なのローション】

3. 今後の展望

- ・都市部からのリピーターを確保するためには、新たな特産物の確保が急務である。特産品の試作にあたっては、複数の生産者で実施するなど短期間で成果を上げていく。
- ・茶の実など6次化商品の材料の確保は、地域だけでは困難であるため、地域外の人材による支援が不可欠の状況。中山間応援サポーター制度などの制度を活用しながら、材料の確保に努めていく。
- ・既存の協定団体とのつながりを強化するとともに、専門家を招聘するなどし、HPを管理・運営する人材を育成し、自ら情報発信できる能力をつける。
- ・現在実施している、棚田の保全、シャクナゲ芽摘み、茶の実摘み、味噌づくり体験、餅つき体験を継続し、都市農村との交流活動がさらに活発になることで、星野村のファンを増やし、農村体験観光メニューとして繋げていく。



【都市農村との交流：味噌づくり体験】